2025 年度　国際留学生入学試験　２次選考　日本語試験問題

次の文章を読み、問いに答えなさい。

インターネットでは、広告や利用者の囲い込みなどをベースに成り立っているビジネスが多いですが、アテンションエコノミーは、そうした環境で成り立つ経済のあり方のことです。具体的には、情報の内実や質よりも、人の注目それ自体が価値を持つことを指しています。

アテンションエコノミーにおいては、コンテンツ、広告、製品、サービス、ウェブプラットフォーム、オンラインサロン、YouTube チャンネル、インフルエンサーなどのいずれも、どれくらいの人がそれに注目し、クリック数や購入者数、登録者数、売上などがどれくらい具体的に動いているかという、数量的な「動員」（エンゲージメント）こそが問題になります。

あらゆる人間やイベント、商品などがアテンション（＝注意）を奪うことに最適化していて、それらが私たちの注意を奪い合うだけでなく、私たち自身も SNS の発信を通じて、そうした注意を奪い合う競争に参加しています。

こうした消費環境は明らかに注意の分散に貢献していますが、別に企業や技術だけのせいでもありません。私たち自身が、日夜スマホを通じて注意を分散させる試みに喜んで参加していることを進んで認める必要があるでしょう。スマホを触りながらの対面コミュニケーションでは、相手の会話は薄く聞くだけ、小難しい内容は無視する、何か聞かれたら生返事、そんなやりとりが関の山でしょう。こんな環境で、「消化しきれなさ」「モヤモヤ」「難しさ」の類を抱えておくなんてやってられないとしか思えないはずです。

残念ながら、注意の分散によっておろそかになるのは、対面のコミュニケーションだけではありません。マルチタスク的に処理しているあらゆることが、同時並行している分だけおろそかになっています。漫画を読むことも、電話をすることも、音楽を聴くことも、誰かとテキストをやりとりすることも、全部です。

いくつかの研究が示唆するところでは、スマホを触っていなくても、そこにスマホがあるという事実が、対面の会話に影響を与えている可能性があります。具体的には、会話での共感レベルが下がり、話題がスマホに左右される恐れがあり、自他の感情や心理状態への注意が削がれてしまいかねません。

恐らくこのことの背景には、注意の分散があるのでしょう。一つのことに十分注意を向けて、それについてあれこれ考える習慣そのものが衰退しているのだとすれば、やはり〈孤立〉が重要になってきます。

いろいろな事柄や相手に注意が分散しているわけですから、対面での会話が作業するようにこなされてしまうのは当然です。反射的なコミュニケーションで自分を取り巻くことは、相手の人格や心理状態を想像しないようにと日夜練習を積み重ねているようなものです。マルチタスク化した生活がもたらす〈孤立〉の喪失は、なかなか問題がありそうです。

出典：谷川嘉浩『スマホ時代の哲学――失われた孤独をめぐる冒険』、
ディスカヴァー・トゥエンティワン、2022 年。出題のため一部改変。

問 1　本文を要約しなさい。（100 字以内）

問 2　本文の内容を踏まえつつ、自らの考えを述べなさい。（200 字以内）

以　上